

## 農山漁村等地域の情報集積を活用した持続可能な農山漁村等地域育成への貢献

タイトル 環境保全問題と規模拡大への取組みに対する金融支援

J A 名 大樹町（北海道）

1 動機 (経緯)	大樹町は酪農を中心とした地域であり、農家戸数は年々減少していますが、協業法人化も含めた規模拡大により、一戸当たりの飼養頭数は増加しています。 地域住民からは臭気対策等、環境保全に対する要望があり、一方で酪農家においては糞尿処理に係る労力や容量に限界もあるため、町内最大規模の農業法人がバイオガスプラントを設置しました。
2 概要	(1) 町の支援内容 バイオマスの利用を通じて循環型社会形成に寄与し、環境保全について適切な措置が講じられる施設を設置する事業者に対して、固定資産税相当額を5年間補助する等、積極的な支援を行っています。 (2) J A の支援内容 農家戸数が減少する中で、規模拡大を行う組合員へは資金コーディネートを含む積極的な支援を行っており、家畜導入支援対策として独自資金「農業経営拡大化資金」による低利資金対応（実質負担0～1%）も行っています。 また、当 J A では重要な課題の一つとして、酪農・畜産・畑作が連携した資源循環システムと自然に配慮したクリーン農業の推進による豊かな環境づくりを挙げており、環境保全等も含めた資金コーディネートも行っています。
3 成果 (効果)	(1) 当プラントの1日の糞尿処理量は最大で成牛1,400頭分に当たる103t。発電出力は最大300キロワット、年間発電量は220万キロワットです。電力は再生可能エネルギー固定価格買取制度を利用しています。 (2) 糞尿発酵時に発生する熱エネルギーは発酵槽の加温、牛舎への給湯、暖房等に活用している他、野菜栽培等への活用も検討しています。メタンガス発生後に残る消化液は良質な液肥として牧草地に還元、更には耕畜連携として畑作農家への消化液散布を計画しています。また、臭気も削減されているため、環境に優しい循環型酪農経営の実現も果たしており、同地域には2件目の施設も導入され波及効果も生まれています。 (3) その他にも、糞尿処理の負担軽減により、乳牛の増頭や飼養管理の向上が可能となり、乳量増加による収入増へつなげることが可能となります。
4 今後の予定 (課題)	プラント普及への課題としては、農村部の配電網が細く、変電所の容量も小さいため、太陽光発電が盛んな地域等はバイオガスプラントからの電力買取ができないことも多い状況です。プラント設置に前向きな酪農家が増えている一方、上記要因等が普及への妨げとなっており、改善が望まれます。